

平成27年度 第2回首都圏地域コア運営委員会 開催報告

■日 時：平成28年2月10日（水）10:00～11:30

■場 所：電気通信大学 東7号館4階415号室

■出席者：12名（企業関係者5名、自治体関係者1名、大学関係者6名）

■議 題：他地域のシーズ・ニーズに関するマッチング可能性調査 他

■報告、説明：

- スーパー連携大学院第1期生の博士サートIFICATE取得予定等について1名の受講生への博士サートIFICATE授与がこの3月に予定されている旨の報告があった。
- 大学間連携共同教育推進事業「平成27年度地域フォーラム（富山）」の開催報告があった。
- データアントレプレナープログラム（住友電工グループ寄附講座）の進捗について、下記の報告があった。
 - ・11月～12月に第1回公開講座を開講した。山川委員を始め多くの企業関係者の方にも講師として参加いただき、電通大の正規のプログラム以上により実践的なところを強化できたのではないかと考えている。
 - ・当初20名の参加者を想定していたが、65名の参加があった。そのうち半数以上が社会人等大学内学生以外の参加者だった。
 - ・受講生がたいへん熱心だった。他大学等で行った講義より積極的、的確な質問も多かった。
- 経済産業省の公募事業「産学連携サービス経営人材育成事業」について、電通大にて現在申請を検討している旨の報告があった。
- 「第103回電気通信大学産学官連携センター研究開発セミナー」について、(株)オプトエレクトロニクスの協力により実施する旨の報告があった。

■意見交換等：

- シーズニーズ一覧表について特に興味をひかれる内容は無かったが、詳細資料を見れば興味が出るものもあるかもしれない。
- 大学が出したがるシーズには、企業は興味がないことが多い。逆に企業側からニーズを出すと、予想外の分野から問い合わせが来ることもある。
- シーズを公開することも必要だが、その場合多くの人目につく形にしなければならない。
- 業種によっては大学シーズに興味がある人もいる。そういう人をどうやって見つけるか。どうやってマッチングさせるかという方法が重要である。
- シーズ情報については効率的に検索できるといい。例えばJSTは科研費とリンクしている。
- 成功事例をアピールする場があるといい。企業側に、何が一緒にできるのかを見せたい。
- 興味があるテーマもいくつかあるが、内容が一般的過ぎてわからないものが多い。特徴やベンチマーキング、優位性情報がない。興味があっても判断はできない。
- 地域の企業については、大企業傘下から脱出できていない。良い技術があっても、それをブラッシュアップできない。それらのことがあり、なかなか自立できない。企業の良いところを取り上げて、大学と連携してブラッシュアップして商品として使えるようになれば良い。そうすれば地域活性化にもつながる。
- 教員としては常日頃、学生の教育と、研究成果を出さなければならないこととの板挟みに悩んでいる
- 大学に企業ニーズに対する提案をお願いした時に、どこからも同じような提案をもらうことがある。特

徴の無い提案では魅力を感じない。今までと別の分野から提案があるとうれしい。そういう意味では大学シーズ情報は価値があるかもしれない。

以上